

第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 進捗状況

資料No. 1 - 1

章	節	項	事業等名	R3の取組・成果	R4以降の取組・方向性 (次年度調査時に記入)	関連指標			頁	
						R1	R2	R3実績		
総論 第2章 高齢者等の概況										
	1	-	人口構造	-	別紙P1～9参照					
	1	-	日常生活圏域別人口及び高齢者人口	-						
	2	-	要介護者等の状況	-						
	2	-	要介護状態の原因となる疾患	-						
	2	-	要介護(要支援)認定者における認知症高齢者数	-						
	2	-	要介護度別サービス利用者数	-						
第4章 日常生活圏域の設定										
	-	-	日常生活圏域の概況	-	別紙P10参照					
各論 第1章 暮らしを支える体制と支援の充実										
	1	1	地域包括支援センターの業務	関係機関と連携をとりながら、高齢者に関する各種相談への対応、介護予防事業の紹介のほか、地域の実情に応じた対象者の抽出と実態把握を重点的に行うなど、様々な支援を行いました。 関係機関の連携促進のために地域福祉連携事業を開催しました。 地域包括支援センター活動実績集計方法の見直しを行い、より、活動実態がわかる指標を設定しました。そのため、R1.R2の実績は空欄となっています。	関係機関と連携をとりながら、高齢者に関する各種相談への対応、介護予防事業の紹介のほか、地域の実情に応じた対象者の抽出と実態把握を行うなど、様々な支援を行う。 関係機関との連携や地域づくり推進のための地域福祉連携事業、多職種連携強化のための環境整備等を実施する。	総合相談受付件数	-	-	6,024	35
						実態把握件数	-	-	1,841	
						地域福祉連携事業実施件数	-	-	1,365	
						虐待通報受付件数	274	246	265	
						成年後見相談件数	79	130	56	
						ケアマネ支援件数	425	421	334	
						介護予防ケアマネジメント実施延件数	-	-	4,230	
	2	1	安心連絡システム	ひとり暮らしの高齢者が安心して生活できるよう継続して実施しました。 また、支援が必要な人が制度を利用できるように、市政だよりや市公式LINEのほか、地域包括支援センターや民生委員と連携して制度を周知し、普及を図りました。	利用者が減少しているため、必要な方が事業を利用できるよう、市政だよりやSNSによる情報発信のほか、市民が集まる場等を活用して事業を説明し、周知を図っていく。	貸与台数	708	673	655	38
	2	2	日常生活用具の貸与・給付	在宅の寝たきり高齢者に対し、介護保険法の対象外の用具を貸与することにより、高齢者の福祉の増進と介護者者の負担軽減を図りました。	吸引器の貸与は一定のニーズがあることから、今後も在宅介護を支えるサービスの一つとして継続実施していく。介護保険サービスの福祉用具貸与等の動向を踏まえて貸与・給付品目の見直しを行う。	吸引器貸与台数	65	59	59	38
						電磁調理器給付台数	2	-	-	

章	節	項	事業等名	R3の取組・成果	R4以降の取組・方向性 (次年度調査時に記入)	関連指標			頁	
						R1	R2	R3実績		
	2	2	車いすの貸与	骨折や、リハビリ期間等、一時的、短期的に車いすが必要な方が、購入することなく無料で借りることができることにより、福祉の増進を図りました。	利用者が安心して利用できるよう、車いすの管理・点検を確実にし、借りたときに借りれるよう十分な数を用意して、事業を継続する。	貸与台数	186	128	160	39
	2	3	養護老人ホーム短期入所	高齢者虐待や環境上の問題により在宅生活が困難になった場合に、一時的に養護老人ホームを利用し、次の住まいを確保したり、成年後見を申し立てたりすることで高齢者の福祉や権利擁護に取り組みました。	高齢者虐待等に対応するシェルターとしての施設利用が予測されるため、現状の制度を維持するとともに、入所状況等を踏まえ今後のあり方を検討する。	延入所日数	341	146	44	39
	2	4	高齢者の権利擁護及び財産等の保全・活用	長岡市社会福祉協議会の権利擁護支援課は、法人後見の実施、成年後見制度等に関する相談窓口の設置、広報・啓発等に取り組みました。また、関係機関と連携をとりながら、高齢者虐待防止の支援、成年後見制度の利用促進、消費者被害防止の啓発に取り組みました。	また、関係機関と連携をとりながら、高齢者虐待防止の支援、成年後見制度の利用促進、消費者被害防止の啓発に引き続き取り組む。	-	-	-	-	40
	3	2	在宅介護者への支援の充実	在宅介護者を応援するため、在宅で介護を行う同居家族に支援金を支給しました。介護教室・介護者交流会事業は令和2年度限りで終了しました。	継続して、在宅で介護を行う同居家族に支援金を支給する。	介護者支援金支給決定者数	5,676	5,616	5,654	44
						介護研修会実施回数	13	3	-	
						介護研修会参加者数	205	54	-	
	4	1	生活援助員(ライフサポートアドバイザー)派遣	高齢者が自立した在宅生活ができるよう、対象世帯に生活援助員を派遣し、入居者を支援しました。	引き続き、生活援助員を派遣する。	対象世帯数	60	60	60	46
						生活援助員数	3	3	3	
	4	2	高齢者住宅改造費補助	介護保険制度の住宅改修費への上乘せや、市独自の住宅改造項目への補助によって在宅高齢者等の生活環境が安全で安心となるよう、支援を行いました。	介護保険制度の住宅改修費への上乘せや、市独自の住宅改造項目への補助によって在宅高齢者等の生活環境が安全で安心となるよう、引き続き支援していきます。	利用者数	52	39	43	46

章	節	項	事業等名	R3の取組・成果	R4以降の取組・方向性 (次年度調査時に記入)	関連指標			頁
						R1	R2	R3実績	
4	3	ケアハウス	ケアハウスに対する積極的かつ緊急的な整備要望はないため、現状を維持しました。	ケアハウスに対する積極的かつ緊急的な整備要望はないため、引き続き、現状維持とする。	箇所数累計	8	8	8	47
					定員	271	271	271	
4	4	養護老人ホーム	入所状況等を踏まえ、施設の適正規模への見直しを進めました。	引き続き、入所者が安心して生活できるように適切に運営する。	箇所数累計	1	1	1	47
					定員	150	150	60	
4	5	有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅	関係機関と調整を図りながら整備状況の情報連携に努めました。	引き続き、関係機関と調整を図りながら整備状況の確認を行う。	別紙P11参照			48	
4	6	生活支援ハウス	低所得者層の単身者等に住まいを提供できることから、現状を維持しました。	低所得者層の単身者等に住まいを提供できることから、引き続き、現状を維持する。	箇所数累計	2	2	2	50
					定員	24	24	24	
5	1	在宅医療と介護等の連携の推進「顔の見える関係」の深化	地域包括ケア推進協議会の各専門部会や多職種勉強会兼圏域別多職種交流会を実施し、多職種の顔の見える関係の深化を図りました。	引き続き、地域包括ケア推進協議会、各専門部会や、地域別の多職種交流会、多職種での勉強会などを実施することで、多職種の「顔の見える関係」の深化を図る。	-	-	-	-	51
5	2	ICT情報連携システム「フェニックスネット」の推進	医師会をはじめ関係者と連携し、フェニックスネットの推進に取り組みました。 令和3年度年間登録者数 1,920名	医師会をはじめ関係者と連携し、取組を一層推進する。電子申請による登録手続きの簡素化、チラシによる周知等登録者の拡大に向けた取組を進める。	-	-	-	-	51
5	3	要介護者等に対するリハビリテーション提供体制の構築	生活期のリハビリテーションを行う介護保険サービス事業所や関係機関と連携しながら、サービス供給体制の確保に努めました。	引き続き、介護保険サービス事業所や関係機関と連携しながら、サービス供給体制の確保に努めます。	-	-	19.3	18.2	52
6	1	関係者の連携による生活支援体制の充実	社会福祉協議会と連携し、関係者ネットワーク会議や地域福祉懇談会を開催し、地域での生活支援体制の推進に向けた取組を進めました。	引き続き、社会福祉協議会と連携し、関係者ネットワーク会議や地域福祉懇談会、市民向けセミナーの開催など、地域での生活支援体制の充実に向けた取組を進める。	-	-	-	-	53

章	節	項	事業等名	R3の取組・成果	R4以降の取組・方向性 (次年度調査時に記入)	関連指標			頁	
						R1	R2	R3実績		
第2章 認知症施策の推進										
1	2		普及啓発・本人発信支援	認知症の基礎知識を学ぶ認知症サポーター養成講座を行っているほか、講師役であるキャラバン・メイトの活動を支援しました。	認知症の基礎知識を学ぶ認知症サポーター養成講座を行うとともに、講師役であるキャラバン・メイトの活動を支援する。	認知症サポーター養成講座受講延人数	1,814	1,278	857	54
2	-		認知症の予防	認知症予防に特化した4回コースの継続教室や、認知機能と運動機能の向上を目的としたスクエアステップ教室を開催しました。また、地域での予防知識の普及を目的とした単発講座も行いました。	参加者の予防習慣の定着に向けて、知識の普及だけでなく、実践的な取組を紹介するなど、内容の充実を図ります。	-	-	-	-	56
3	1		早期発見と早期対応の取組の推進	タッチパネルを使った「脳の健康チェック」や認知症自己診断テスト((一社)認知症予防協会)の周知のほか、認知症初期集中支援チームの活動を行いました。	引き続き、タッチパネルを使った「脳の健康チェック」や認知症自己診断テスト((一社)認知症予防協会)の周知のほか、認知症初期集中支援チームの活動を継続する。	-	-	-	-	57
3	3		家族の介護負担の軽減と外出支援	認知症高齢者を介護する家族の介護負担を軽減するため、「やすらぎ支援員」による訪問見守り事業を行いました。	事業の周知を図るとともに、シルバー人材センターと連携して新しい支援員を養成し、サービスの提供体制を整備していく。	やすらぎ支援員利用実人数	42	31	21	58
3	4		認知症の人と家族が交流できる場の充実	身近なリフレッシュの場、相談の場として、オレンジカフェを開催したほか、来場できない方のために、オンラインオレンジカフェを開催しました。	引き続き、オレンジカフェを市内14か所で運営、オンラインオレンジカフェを開催する。オレンジカフェのない地域におけるリフレッシュの場、相談の場の設置に向けて、関係者と検討を進める。	-	-	-	-	58
4	-		認知症バリアフリーの推進	認知症高齢者等の行方不明の防止や行方不明時の早期発見・保護のために、引き続き「はいかいシルバーSOS」への協力や「認知症高齢者等見守りシール配布事業」を行いました。	引き続き、「はいかいシルバーSOS」への協力や「認知症高齢者等見守りシール配布事業」を行い、認知症高齢者等の行方不明の防止や行方不明時の早期発見・保護に取り組む。	-	-	-	-	59

章	節	項	事業等名	R3の取組・成果	R4以降の取組・方向性 (次年度調査時に記入)	関連指標			頁	
						R1	R2	R3実績		
第3章 持続可能な介護保険制度の推進と適正な運営										
	2	-	介護保険事業費等の推計	計画値に対し、標準給付費で95.7%の実績を見込んでおり、財政的に安定した運営状況で推移しています。	第8期中の介護給付費及び利用量の推移やサービス利用意向等を分析し、第9期計画に生かしていきます。	別紙P12～P18参照			83	
	3	1	介護給付適正化事業の推進	ケアプランチェックで、利用者の自立支援に資する適正なケアプランであるか、事業者と協働点検を行いました。 また、住宅改修の現地確認や福祉用具購入・貸与の点検を行い、実態に即したサービス提供であるか確認しました。	ケアプランチェックで、利用者の自立支援に資する適正なケアプランであるか、事業者と協働点検や市外の事業者に対しては書面点検を実施し、介護支援専門員の質の向上と真に必要なサービス提供の確保につなげます。また、令和4年度は県からケアプラン点検アドバイザーを派遣してもらい、PDCAサイクルを効果的に行えるよう事業に取り組みます。住宅改修の現地確認や福祉用具購入・貸与の必要性や利用状況を確認し、利用者の身体状態に応じた適正な福祉用具の利用を進めます。	要介護認定チェック数	7,944	3,856	6,520	96
						ケアプランの点検数	203	290	192	
						住宅改修等の点検数	4	6	3	
						縦覧点検数	3,791	4,329	8,439	
						医療情報との突合数	274	204	163	
						給付実績の活用	1,356	555	448	
	3	2	介護相談員の派遣	介護保険制度に精通し、専門的知識を持った介護相談員の施設等への派遣について、サービス付き高齢者向け住宅等を対象施設に追加し、定期的に頻回な訪問を行うよう計画したが、新型コロナウイルス感染防止対策のため、施設への訪問活動は中止しました。 事業所等を対象に、新型コロナウイルス禍における施設や利用者の状況について調査を実施し、取り組み事例等を事業所へフィードバックを行いました。	介護相談員の定期的な頻回訪問により顔の見える関係を築き、利用者の話を導き、事業者との間の橋渡し役となり、心配事等を解消します。事業所等の担当の介護相談員として訪問し、施設との連携や関係性を保ち、適切なサービス提供を促すこと及び実態を把握し、苦情や虐待に至ることを未然に防止します。	派遣施設数	172	0	6	97
						相談員数	6	6	6	
	4	-	介護基盤の維持・確保	川東地区北に定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所1事業所を整備しました。 また、介護老人福祉施設の定員20人の増床を行いました。	令和4年度は、小規模多機能型居宅介護1か所29人、認知症対応型共同生活介護2か所36人、看護小規模多機能型居宅介護1か所29人、特定施設入居者生活介護1か所60人を整備予定であるが、特定施設入居者生活介護以外のサービスは応募が無い状態であり、年度内に再募集を行う予定。	別紙P19参照			99	

章	節	項	事業等名	R3の取組・成果	R4以降の取組・方向性 (次年度調査時に記入)	関連指標			頁
						R1	R2	R3実績	
第4章 はつらつとした暮らしと社会参加の促進									
1	3	スポーツ・レクリエーション活動の推進	令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった大会もありましたが、開催を通じて高齢者がスポーツを行う機会を提供するとともに、高齢者同士の交流促進を図ることができました。	各種大会、教室を実施し、高齢者の体力づくり、仲間づくりに積極的に取り組む。	高齢者親善ペタンク大会参加者数	58	中止	中止	108
					高齢者スポーツ大会参加者数	130	中止	中止	
					地域交流スポーツ大会参加者数	342	中止	中止	
					マスターズスポーツ教室参加者数	219	197	208	
1	4	老人クラブ活動の支援	市内各地域において活動している老人クラブ及びそれを指導している長岡市老人クラブ連合会に対し、補助金を交付しました。	補助金事業を継続するほか、老人クラブの活性化に向けた連合会組織や活動のあり方について、長岡市老人クラブ連合会と検討を進める。	クラブ数	224	207	201	109
					会員数	11,112	10,094	9,322	
2	1	高齢者の雇用促進	ハローワーク長岡など関係機関と連携し、求職者の雇用促進や、企業における多様な人材活用、誰もが働きやすい職場環境づくりを推進しました。	ハローワーク長岡など関係機関と連携し、求職者の雇用促進や、企業における多様な人材活用、誰もが働きやすい職場環境づくりを推進します。	新規求職者数	1,911	1,873	1,776	112
					有効求職者数	7,623	8,282	7,972	
					有効求人数	7,358	5,173	6,414	
					有効求人倍率	0.97	0.62	0.80	
					紹介件数	1,779	1,551	1,450	
					紹介率	93.1	82.8	81.6	
					就職件数	515	387	395	
就職率	26.9	20.7	22.2						
2	2	シルバー人材センターの充実支援	これまで以上に、会員の就業活動や地域貢献活動などを積極的に紹介し、高齢社会を支えるセンターの役割を、多くの市民にPRしました。結果、会員数は前年度より減少していますが、受注件数及び契約金額は増加しています。	これまで以上に、会員の就業活動や地域貢献活動などを積極的に紹介し、高齢社会を支えるセンターの役割を、多くの市民にPRしていく必要がある。	会員数	3,076	3,080	2,955	113
					受託件数	14,610	17,930	13,088	

章	節	項	事業等名	R3の取組・成果	R4以降の取組・方向性 (次年度調査時に記入)	関連指標			頁	
						R1	R2	R3実績		
第5章 健康づくりと介護予防の強化・推進										
1	1	1	多世代健康まちづくり事業の推進	運動の習慣化に着目したセミナーを実施し、様々な種目の運動を体験する機会となりました。また、他の参加者との交流、仲間づくりにもつながりました。	一層の運動習慣の定着化に向け、家でも実施できるものや、セミナー終了後に地域にある教室につながるような体験プログラムを取り入れていきます。	健康くらぶ会員数	3,225	2,425	2,061	114
						地域セミナー実施地域数	11	10	8	
						地域セミナー延参加人数	1,812	1,450	1,016	
1	2	1	健康診査の充実	地区会場で実施する集団健診について地区担当保健師による周知を行いました。また、健診未受診者に対し通知発送や電話による受診勧奨を強化し、受診率向上に努めました。	引き続き、受診率向上に向け、多様な方法による受診勧奨や受診しやすい環境整備に努めます。	別紙P20参照			115	
1	2	2	健康教育の充実	糖尿病、高血圧、がん等の生活習慣病予防を目的にコミセンや関係団体と協力し、各地区の実態に合わせて啓発に取り組みました。	引き続き、コミセンや関係団体と協力し、各地区の実態に合った生活習慣予防に関する健康教育を行っていきます。	集団健康教育実施回数	380	374	378	117
						集団健康教育参加者数	11,270	8,152	9,494	
1	2	2	健康相談の充実	個別の相談対応により、健康増進、健康に対する不安の解消、また、生活習改善への動機づけを行うことができました。	引き続き、希望者への個別の相談対応を行い、健康増進や健康不安の解消に努めます。実施回数や実施形態については状況に応じて検討し、対応していきます。	総合健康相談回数	101	73	73	117
						総合健康相談人数	636	354	528	
						こころの健康相談回数	48	41	46	
						こころの健康相談人数(65歳以上)	86	60	66	
1	2	2	訪問指導の実施	健診結果からのハイリスク者や治療中断者等を中心に訪問指導を実施し、生活習慣病の発症及び重症化予防に努めました。	これまで主な対象としていた国保加入者に加え令和4年度より後期高齢者にも拡大して実施します。引き続き、訪問指導の実施により生活習慣病の発症及び重症化予防に努めます	訪問延人数	1,524	2,217	1,251	118
1	2	2	はり・きゅう・マッサージ施術費の助成	はり・きゅう・マッサージを受ける際の施術費の一部を助成することにより、高齢者の健康の保持及び福祉の増進を図りました。	当面は現状のまま実施するが、利用状況の推移を見ながら、必要に応じて助成券の交付枚数等について、実態にあわせて検討する。	交付人数	575	523	464	119
						交付枚数	2,300	2,092	1,856	
						利用枚数	1,486	1,349	1,219	
						利用率	64.6	64.5	65.7	
2	1	1	介護予防・生活支援サービス事業の推進:通所型サービス	介護予防の視点を取り入れながら生活機能の向上がはかれるよう、事業を実施しました。	介護予防の視点を取り入れながら、身体的機能訓練だけでなく、生活機能の向上を図り、生き生きとした生活を送れるよう、事業を継続して行っていく。また、多様な主体によるサービスの拡充に取り組んでいく。	介護予防通所サービス利用件数	8,907	8,312	7,854	120
						くらし元気アップ事業利用件数	5,321	5,036	5,186	
						短期集中レベルアップ事業利用実人数	69	81	69	
						筋力向上トレーニング事業利用実人数	34	57	46	

章	節	項	事業等名	R3の取組・成果	R4以降の取組・方向性 (次年度調査時に記入)	関連指標			頁	
						R1	R2	R3実績		
	2	1	介護予防・生活支援サービス事業の推進:訪問型サービス	地域住民やNPO法人等専門職以外の力も借りながら、事業を実施しました。	引き続き事業を行っていくとともに、地域住民やNPO法人等専門職以外の人材が新しい担い手となって高齢者を支える仕組みの構築に取り組んでいく。	介護予防訪問サービス利用件数	3,635	3,753	4,001	122
						生活サポート事業(委託分)利用実人数	149	104	120	
						生活サポート事業(補助分)実施団体数	2	2	2	
	2	2	一般介護予防事業の推進	介護予防の知識の普及や取組のきっかけづくりを目的に、複合的な教室や講座を開催しました。また、小地域での教室を開催することによる通いの場(サークル)の立ち上げ支援や、活動の継続支援を行いました。	引き続き、介護予防の必要性や方法などの普及を図るとともに、より地域のニーズに合わせた通いの場の立ち上げ支援・活動支援を行っていきます。また、新しく介護予防に取り組むきっかけとなるよう、多様な場やツールを提供していきます。	-	-	-	125	

章	節	項	事業等名	R3の取組・成果	R4以降の取組・方向性 (次年度調査時に記入)	関連指標			頁	
						R1	R2	R3実績		
第6章 地域で支え合う体制の構築										
1	4		地域福祉・在宅福祉サービス (ボランティア銀行)	新型コロナウイルス禍で活動制限を余儀なくされましたが、感染対策の上、買い物代行などの生活支援活動を行いました。	感染症対策の上、必要な生活支援活動を実施する。活動実践者のスキルアップのための研修会を開催する。利用者、支援者ともに高齢化しており、新たな運営、機能の構築を目指している。	延利用者数	635	540	510	130
						年間総利用回数	2,053	1,848	1,679	
1	4		福祉送迎サービス	新型コロナウイルス禍ではありましたが、感染対策の上、通院の送迎を行いました。協力会員向けの実技講習を行いました。	感染症対策の上、通院の送迎を実施する。協力会員向けの講習会(座学・実技)を開催する。	延利用者数	2,137	2,174	1,942	130
						年間総利用回数	2,136	2,172	1,942	
1	4		小地域ネットワーク	新型コロナウイルス禍ではありましたが、可能な範囲で見守り活動を継続しました。地域住民のつながりを維持することができました。	感染対策の上、住民同士の見守り活動を実施し、つながりを維持する。地域福祉懇談会等を通じ、活動の周知を図る。	対象世帯数	16,160	23,067	23,549	131
						利用世帯数	637	640	600	
1	4		ふれあい型食事サービス	感染症拡大防止のため、会食から配食に切り替えて可能な範囲で活動を継続しました。ボランティア研修会は調理実習を中止し、講義形式で開催しました。	中止していた調理実習を感染対策を講じて実施する。また、調理ボランティアを中心とした研修会だけでなく、今後は配達ボランティアを対象とした研修の場を検討する。	利用者数	2,269	2,037	2,165	132
						年間総食数	68,082	39,718	43,290	
2	1		福祉活動の拠点「社会福祉センターモシア」の活用	ボランティアセンターを中心としたイベント等の開催をとおして、団体の活動紹介や活動体験の場を提供しました。	引き続き、ボランティアの積極的な支援と活動スペースの利用促進、福祉相談機能の連携強化を図り、福祉活動の拠点として、さらなる市民活動・交流を支援する。	利用者数	83,445	25,300	27,262	134
3	1		福祉教育の推進	市内小・中・特支・高校・高専の101校を福祉協力校に指定し、長岡市社会福祉協力校指定事業を推進しました。また、市内各校に福祉体験学習の講師の斡旋や職員の派遣、福祉教材の貸し出しなどを行い、福祉教育の支援に努めました。	引き続き、市内101校を対象に社会福祉協力校指定事業を推進し、福祉教育の中核に据える。また、各福祉協力校が所在する地域の福祉施設や関係機関との連携・協働を図り、支援の拡充に努める。	-	-	-	-	135

章	節	項	事業等名	R3の取組・成果	R4以降の取組・方向性 (次年度調査時に記入)	関連指標			頁	
						R1	R2	R3実績		
	3	2	広報・啓発活動の推進	<p>ともしび運動ポスターの巡回展示やリーフレット・ポスターの配布を行いました。</p> <p>また、例年開催していた「すこやか・ともしびまつり」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため規模を縮小しての開催となりましたが、特別事業として「オンライン介護予防体操」等の開催や、介護・障害事業所の利用者が制作した作品をWEB上で鑑賞できる「すこともWEB美術館」を初実施するなど、ともしび運動にまつわる幅広い広報・啓発活動を行いました。</p>	<p>引き続き、ともしび運動ポスターの巡回展示や、リーフレット・ポスターの配布を行う。</p> <p>令和4年9月17・18日に「すこやか・ともしびまつり」を3年振りに開催し、市民の福祉への興味・関心を深めるため、近年好評を得ている体験コーナーを実施するなど、子どもや若い世代に訴求するイベントを行った。</p>	<p>すこやかともしびまつり参加者数</p> <p>※R1 通常開催 R2 中止 R3 規模縮小の上特別事業を開催</p>	21,000	中止	392人 48事業所	136
	3	3	ボランティア活動の促進・支援	<p>ボランティアセンターは、専門職員によるきめ細やかな相談対応を行ったほか、福祉分野に限らず多分野のボランティア情報の提供に努めました。</p> <p>社会福祉協議会においては、コロナ禍によるボランティアの活動自粛もあり、交流活動等の制限をせざるを得ませんでした。研修・相談調整については、感染予防対策を講じた上で実施しました。</p> <p>市民協働センターでは、市民活動に関する相談495件、助成20件などの支援を行いました(R4.1.25現在)</p>	<p>ボランティアセンターでは、専門職員によるボランティアに関する相談や支援調整を行うとともに、ボランティアに関する様々な情報の収集と発信を行い、誰もがボランティア活動に参加できる機会の拡大に努める。</p> <p>社会福祉協議会では、地域福祉懇談会など地域住民が主体となって地域課題を検討する体制づくりを引き続き推進する。</p> <p>市民協働センターにおいては、引き続き相談窓口や活動経費の助成などの支援を継続するとともに、ボランティアセンターと密に情報交換を行って、ボランティアに関する情報の蓄積・充実を図っていく。</p>	-	-	-	137	

章	節	項	事業等名	R3の取組・成果	R4以降の取組・方向性 (次年度調査時に記入)	関連指標			頁	
						R1	R2	R3実績		
第7章 やさしい生活環境の整備										
1	3		利用しやすい公共交通機関の整備促進	町内会等が設置するバス待合所の整備事業に対し、令和3年度は1件補助金交付し、バス利用者の利便性向上が図られました。	引き続き、要望がある町内会等の団体に対して補助金交付により支援する。	バス待合所整備件数	2	1	1	141
						バス待合所整備件数	1	1	1	
						バス待合所整備件数	94	98	106	
2	1		安全・安心な住宅の推進	一般住宅リフォーム支援事業を推進しました。	一部、内容ややり方などを精査し、継続的に支援する。	補助件数：補助金額(千円)	369: 45288	819: 38,799	815: 39,021	143
2	-		住みやすい住宅・住環境づくり	屋上防水・外壁・ベランダ手摺改修(昭和団地4号棟)、屋上防水改修(上除団地H-4号棟、松葉団地1号棟)、給水設備改修(松葉団地1・2号棟、上の原団地1号棟)、洋便化改修(希望が丘1号棟、松葉団地1号棟)の工事を実施しました。	屋上防水・外壁・ベランダ手摺改修(希望が丘7号棟、宮栄2号棟)、給水設備改修(上の原団地2号棟)、洋便化改修(希望が丘2号棟)の工事を実施しました。	-	-	-	-	143
3	1		災害時の安全確保	地域の防災リーダーの育成のため中越市民防災安全大学を開講し、新たに56名を中越市民防災安全士として認定しました。 また、地域へ防災講話等の講師派遣を実施するほか、市から市民への情報伝達訓練を実施するなど、地域防災力の強化に取組みました。	引き続き、自主防災会の結成と活動を支援するとともに、中越市民防災安全大学を開講し、地域の防災リーダーの育成を図る。 また、自主防災会等の訓練へ中越市民防災安全士を積極的に派遣し、さらなる地域防災力の強化を図る。	自主防災会結成率	91.4	90.4	89.7	144
						活動実施率	75.6	60.0	56.4	
						中越市民防災安全士延人数	680	724	780	
3	2		交通安全対策等の推進	警察などの交通安全関係機関・団体と連携し、四季の交通安全運動などを通じて、高齢者に対し反射材の配付などを行いました。	引き続き交通安全関係団体と連携し、高齢者の交通安全に関する啓発活動を実施するとともに、高齢ドライバーに対する交通事故防止についての事業を実施していく。	交通事故死者数	15	8	9	145
						うち、高齢者数	12	4	7	

章	節	項	事業等名	R3の取組・成果	R4以降の取組・方向性 (次年度調査時に記入)	関連指標			頁	
						R1	R2	R3実績		
	3	3	火災予防運動の推進	一人暮らしの高齢者世帯への防火訪問指導及び住宅用火災警報器の設置指導を行いました。	65歳以上の方のみの高齢者世帯への防火訪問指導及び住宅用火災警報器の設置、点検指導を行います。	高齢者世帯 訪問防火指導世帯数	1,470	1,506	1,589	146
	3	4	介護事業所等と連携した感染症対策・災害対策	<p>○感染症対策 【取組】 介護事業所等を運営する法人に対し、職員を対象に実施したPCR検査等の自主検査費用の一部補助を行いました。 【成果】 介護事業所職員の感染不安を解消し、事業所内での感染拡大防止に役立ちました。</p> <p>○災害対策 【取組】 介護事業所が策定(修正)した災害(水害・土砂災害)に対する避難確保計画について、防災担当部局と連携して内容を点検し、必要に応じて助言を行いました。 【成果】 介護事業所において、災害に備えた体制強化に役立ちました。</p>	<p>○感染症対策 引き続き、介護事業所等を運営する法人に対し、職員を対象に実施したPCR検査等の自主検査費用の一部補助を行い、介護事業所職員の感染不安を解消し、事業所内での感染拡大防止を図ります。</p> <p>○災害対策 介護事業所が策定(修正)した災害(水害・土砂災害)に対する避難確保計画について、防災担当部局と連携して内容を点検し、必要に応じて助言を行います。</p>	-	-	-	-	147